

エリアブランディング構想（早川エリア）研究会 資料

①本港・早川・新港周辺

■将来のまちの姿

- 本港周辺は水産業のなりわいや個性のある店舗が活気づき、新たな交流施設と「美食」をキーワードとした飲食店街の形成によって住民や観光客が訪れる機会が増え、漁港・海の魅力に触れるゾーンとなります。
- 新港周辺は海からの来訪者を受け入れる玄関口としての機能が充実しています。

新たな賑わい・交流施設

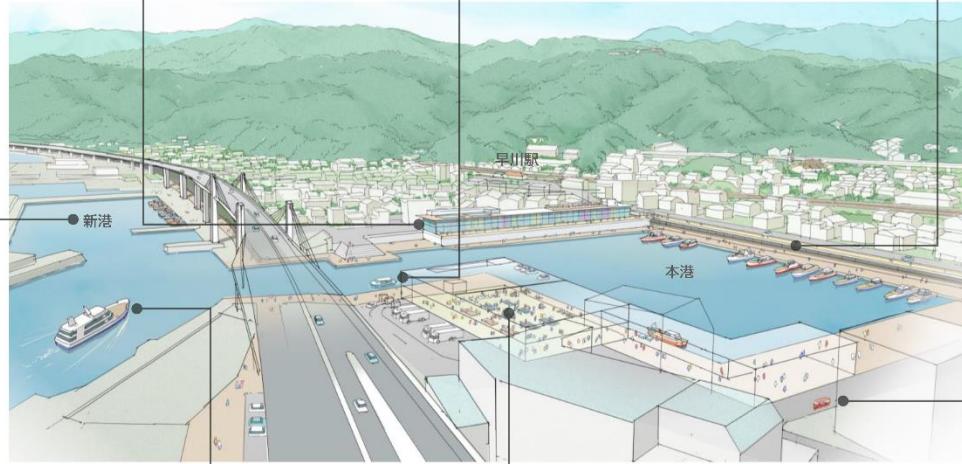
海業が盛んとなり、生産者が営む飲食店・食材の販売・温浴施設・宿泊施設などを住民・漁業関係者・来訪者が共同利用できる機能が充実しています。

② エリア内をつなぐ船の移動

本港周辺と漁港の駅TOTOCO小田原周辺を船がつなぎ、対象エリア内の回遊性が向上しています。

漁港内の回遊・滞留を促す空間の創出

漁港区域内の空間を有効活用し、漁港を眺めながら地魚などの食やアート観賞などで楽しんだり、歩きやすい空間が増えています。



新港の活用

新たな海の玄関口として、クルーズ船などの海上移動の受け入れ場所として検討されています。

④ 船による人の往来や災害時輸送

海から訪れたり、まちを眺めるクルーズ船などが就航しています。災害時には、物資の輸送として海上が利用されます。

① 水産市場の再整備

現在地で再整備された水産市場では、高度な衛生管理のもと、県西3市9町の食の台所として相模湾で獲れた豊富な魚種が水揚げされ、セリ見学ツアーなどが行われています。また、駐車場が整備され、周辺道路の渋滞が緩和し、住民や多くの来訪者で賑わい、地域が潤い豊かになっています。

③ エリア内外の移動を促す交通手段

楽しく気軽に利用できるモビリティで、他ゾーンや、御幸の浜・かまぼこ通りなど、対象エリア外との往来が盛んになっています。

進捗状況（R6.10.15現在）

①水産市場の再整備

- 市議会9月定例会で基本構想策定に係る補正予算議案が成立。令和7年度末までの基本構想策定を目指し作業を進めている。

②エリア内をつなぐ船の移動

- 小田原みなとまつりのコンテンツとして「港内クルーズ」を実施し、全体利用者415名（大人259人、小人156人）となった。
- ただし、定期航路化には課題が多いことから、引き続き、イベント時の実施等を通じて実現可能性について検証していく。

③エリア内外の移動を促す交通手段

- 回遊性の促進を図る目的で「脱炭素モビリティを活用した県西地域の周遊促進業務（神奈川県交通政策課）」の事業として、市内の各拠点に電動キックボードのスポットを設置する取組が進められている。
- 小田原漁港本港周辺、漁港の駅TOTOCO小田原付近にスポットが設置された。

（参考）小田原みなとまつりで体験ブースを設置し、当日は加藤市長も試乗。

④船による人の往来や災害時輸送

- 「漁港における海上交通の受入可能性調査業務（県交通政策課）」の事業として、湘南港と小田原漁港を結ぶクルージングツアーを、小田原あじ・地魚まつり（10/27実施予定）で実施して、利用者需用等を調査する（来年度も試験的なクルージングを実施予定）。
- 併せて陸側のコンテンツについては、小田原市観光協会が、まち歩きツアー（2コース）を実施する予定。

⑤海のアクティビティ

- 「海面の利用調整に関する懇談会（令和5年度：早川・小田原地区）」を開催し、海の利用に関するマナー啓発に向けて検討を進めている。

⑥漁港の駅TOTOCO小田原周辺の屋外空間活用

- 毎月第2週目に「小田原・港の朝市」を開催し、毎回60人程度の購入待ち行列が生じている。
 - イベント広場の広さが足りないため、現状以上の出店は難しい。
- （参考）「小田原みなとまつり」で荷捌き施設周辺の用地を使い、野外音楽ステージや、クルマエビ釣りなど「港の縁日」を開催し、屋外空間の有効利用を図った。

②漁港の駅TOTOCO小田原周辺

■将来のまちの姿

- 漁港の駅TOTOCO小田原周辺の屋外空間では、地場産品の販売やキッチンカーの出店による飲食・買い物機能が充実したことにより、住民利用も促進されています。多目的広場は子ども達の遊び場や地域のイベントなど、多目的利用をする空間となり、住民と来訪者の交流が図られています。
- 早川海岸の整備により、防災力が向上され、地域の期待に応える水遊びやBBQなどの親水エリアとなり、また、蓄養水面を活用した釣りなど、多様なアクティビティが充実しています。

早川海岸の利用

海岸整備によって防災力が上がり、水遊びをする人やBBQなどを楽しむ人がいます。

漁港の駅TOTOCO小田原の魅力向上

地魚の活魚及び鮮魚をはじめ、地場の水産物・農産物の販売が充実することにより、来訪者だけでなく、多くの地域住民にも利用されています。

多目的広場の活用

移動式などの仮設遊具の設置によって滞留機能が充実され、地域の子も達が楽しめる空間や、地域イベントの開催など、地域住民が楽しむ空間となっています。



⑤ 海のアクティビティ

ダイビングやSUP(サップ)などにより、多くの人々のアクティブな体験・交流が生まれています。

船による海上の体験

観光ガイド船などにより、海上から対象エリアを眺め、海の魅力を知る体験が提供されています。

⑥ 漁港の駅TOTOCO小田原周辺の屋外空間活用

朝市などでの地場産品販売やキッチンカーの出店、モビリティの発着場所、キャンピングカー等の宿泊利用で賑わう空間活用がされています。

蓄養水面の活用

蓄養水面の掛け罫ゾーン外では、多くの人が釣りを楽しんでいる、釣った魚を捌いて食するなどの体験が提供されています。